



咲つく南花台プロジェクト ～多世代が快適にいきいきと住み続けられるまちづくり～

河内長野市総合政策部政策企画課
参事 谷ノ上 浩久

南花台の概要

まちの現状

※河内長野市

人口: 106,406人 (H30.6)

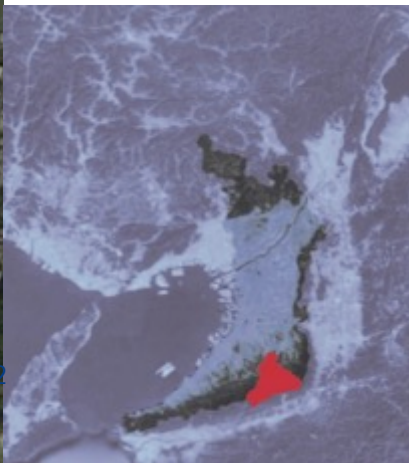
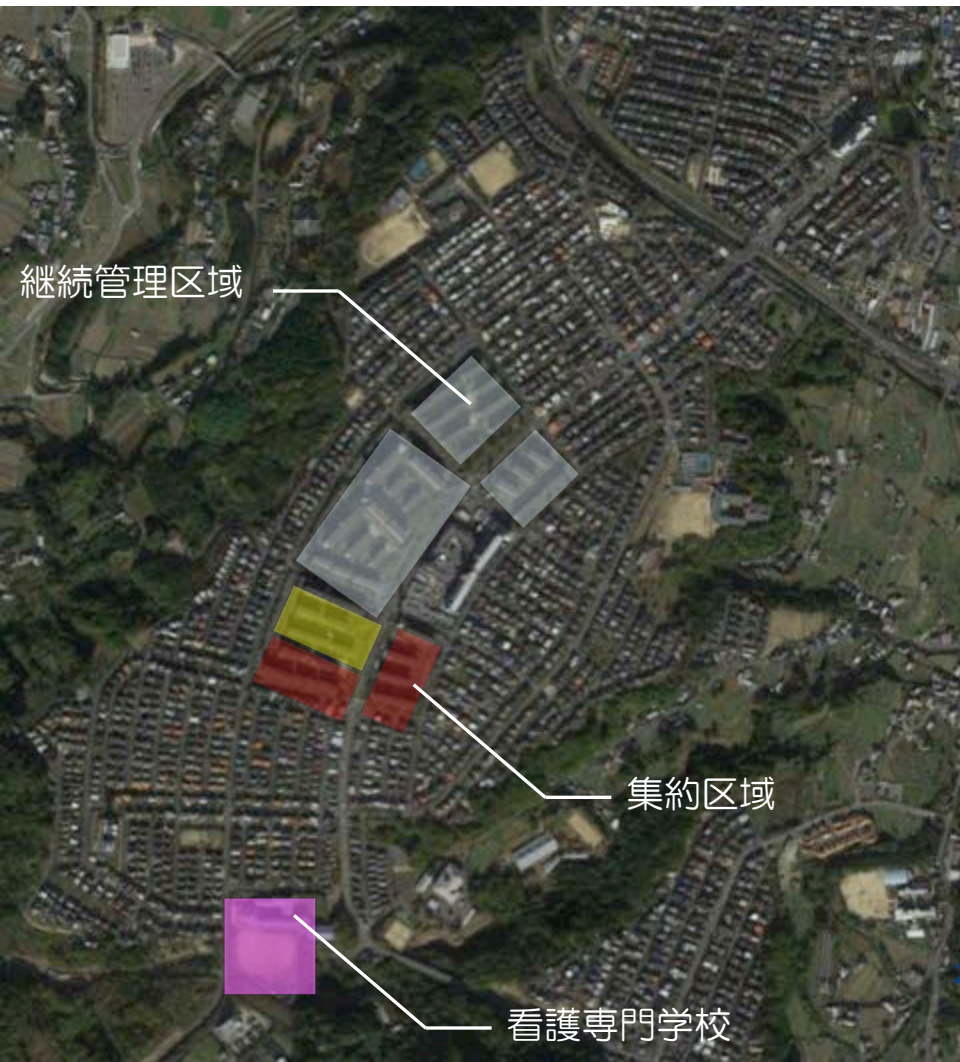
面積: 109.61km² (府下 3位)

・昭和57年(1982)にまち開きされた面積約98ha、約3500世帯の河内長野市最大規模のニュータウン。

・戸建住宅、UR賃貸住宅、民間マンションで構成

・人口約7,600人 (H30.6)

・丘の上の開発されたニュータウンで、緩やかな坂が多い住宅地

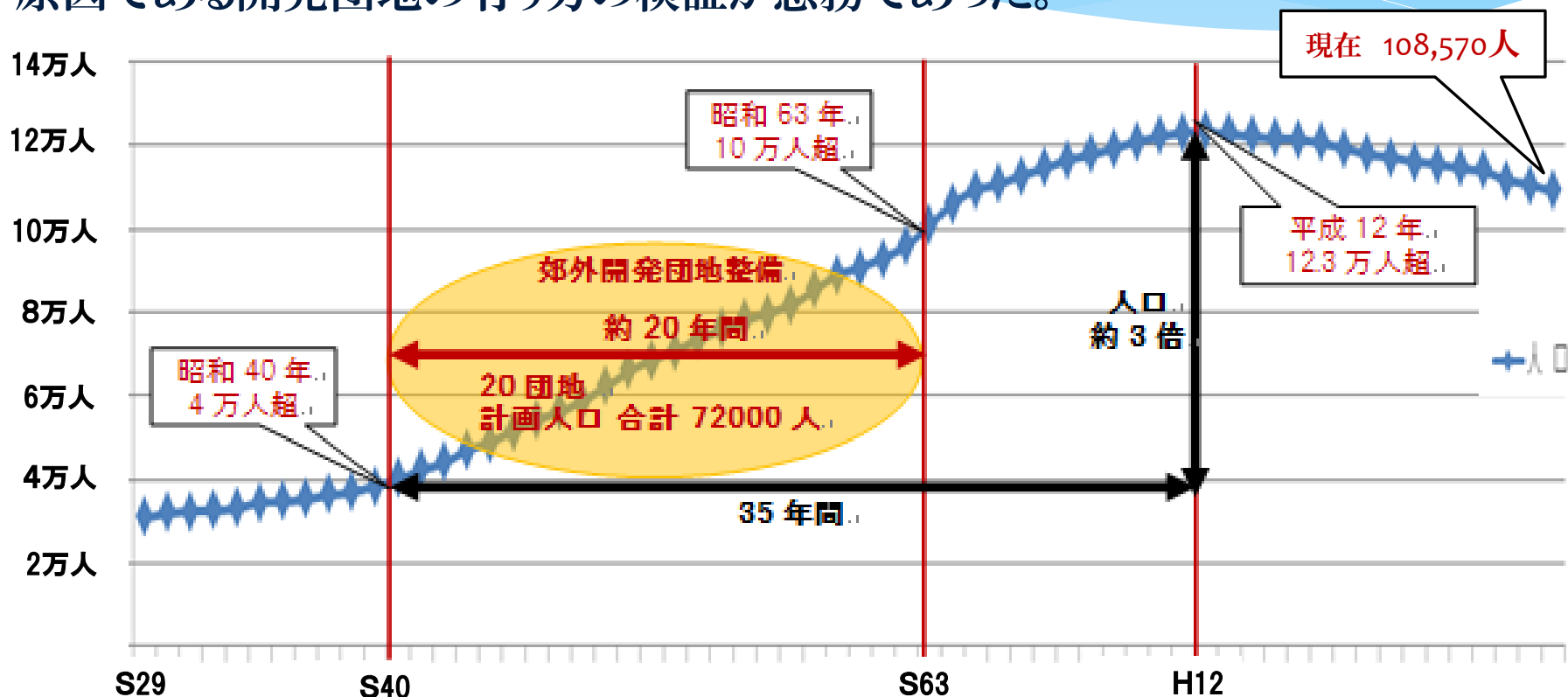




咲く南花台プロジェクト 立ち上げのきっかけ

1. 開発団地再生モデル構築の必要性の高まり

本市は他市に比較し人口減少・少子高齢化が急速に進んでいる、その最も大きな原因である開発団地の有り方の検証が急務であった。



多くの開発団地を短期間で整備し、急激な人口増加を図った。



咲つく南花台プロジェクト 立ち上げのきっかけ

2. 南花台西小学校跡地活用

平成25年3月に閉校した南花台西小学校跡地の有効活用が急務であった。

- ・当初は地域コミュニティ施設として検討したが、課題解決が困難となり断念
- ・高野山大学誘致に取り組んだが、大学組織内での合意が得られず断念

まちづくりと一体的に検討し、地域の活性化に繋がる効果的な施設誘致を、地域の合意形成を図りながら進めていく。





咲つく南花台プロジェクト 立ち上げのきっかけ

3. 「団地再編COMPETITION 2013」実施による関西大学との連携

関西大学がUR南花台団地を対象地にし、「団地全体の仕組みの再編、その結果としての空間の再編、新たな暮らしの提案」をテーマとして実施



南花台を研究のフィールドにする関西大学

応募登録 172件
提出作品 23作品





咲く南花台プロジェクト 立ち上げのきっかけ

4. 「スマートエイジング・シティ」の提言による大阪府との連携

大阪府市医療戦略会議7つの提言の1つである「スマートエイジング・シティ」の実現に向け、郊外型開発団地のモデル地区として南花台が選定された。

戦略案	メインとなる主体	キーとなる視点	ねらい	取組みに関わる他の主体
① 予防・疾病管理、府民行動変革	= 府民 保険者等	× 主役は消費者 治療から予防へ	→ 健康指標の向上 健康格差の解消	保健医療提供機関等、 基礎自治体、大阪府等
② レポートデータの戦略的活用	= 保険者等	× 支払者の行動変革 医療費適正化 医療の標準化	→ 医療の価値追求	府民、 保健医療提供機関等、 研究機関、大阪府等
③ 医療情報の電子化とビッグデータの戦略的活用	= 大阪府	× 創業等ヒト・社支援 医療データベース構築	→ 情報管理産業化	保険者等、 保健医療提供機関等
④ 地域密着型医療・介護連携最適モデル実現	= 医療・介護従事者 保健医療提供機関等 基礎自治体	× 多職種・多機関連携 市町村の主体性	→ 保健医療サービス 持続可能性確保	大阪府
⑤ 増益モデル型民間病院の高度化・経営基盤強化	= 民間病院 大阪府	× 増益モデル型 地域や規模の経済 資金調達システム	→ 保健医療サービス 持続可能性確保	大阪府
⑥ スマートエイジング・シティ	= 基礎自治体 大阪府	× サプライチェーン 仕組み・構造変革 まちづくり	→ 重要戦略産業振興 生活総合産業化	府民 保健医療提供機関等 企業
⑦ スマートエイジング・バレー構想(産業振興)	= 大阪府	× 研究・開発 実証インフラ 認証制度	→ Aging in Place	企業・研究機関等



「咲っく南花台プロジェクト」の経過

■平成26年10月

「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業立ち上げ

- ・毎月1回の総合研究会と地域ワークショップを実施し、地域の声を収集しながら、まちづくりを研究

■平成27年 4月

「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業本格実施 (地方創生先行型交付金)

- ・「健康寿命の延伸」と「元気な住民の活躍の場づくり」を柱とした総合的なまちづくりを進めていく
- ・「健康仲間づくり」「生きがいづくり」「みんなの拠点づくり」「まちの情報発信」「子育て・子育て環境づくり」「ストック活用」の6つのプロジェクトによる多様な取り組みを同時多発的に展開

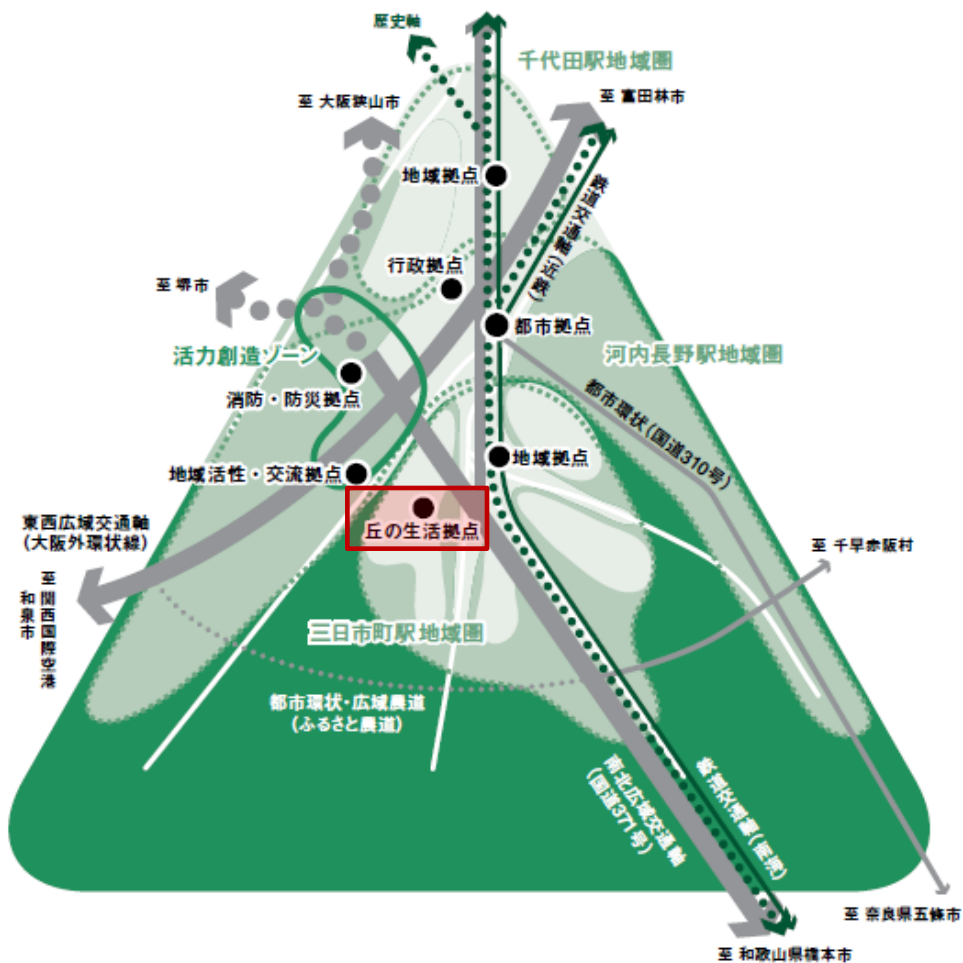
■平成27年10月

「コノミヤテラス」オープン

- ・コノミヤ南花台店空き店舗を無償で貸与いただき整備
- ・地域のまちづくり拠点の有り方を使いながら考える
- ・コノミヤテラスを中心にまちの課題解決につながる仕組みを構築

■平成28年 4月

第5次総合計画に南花台を「丘の生活拠点」と位置付け



- 「丘の生活拠点」(南花台)創生事業へ引き継ぐ
(地方創生加速化交付金)
- 河内長野市南部の開発団地の生活を補完できる拠点化を目指す。
- 周辺地域への広がり期待

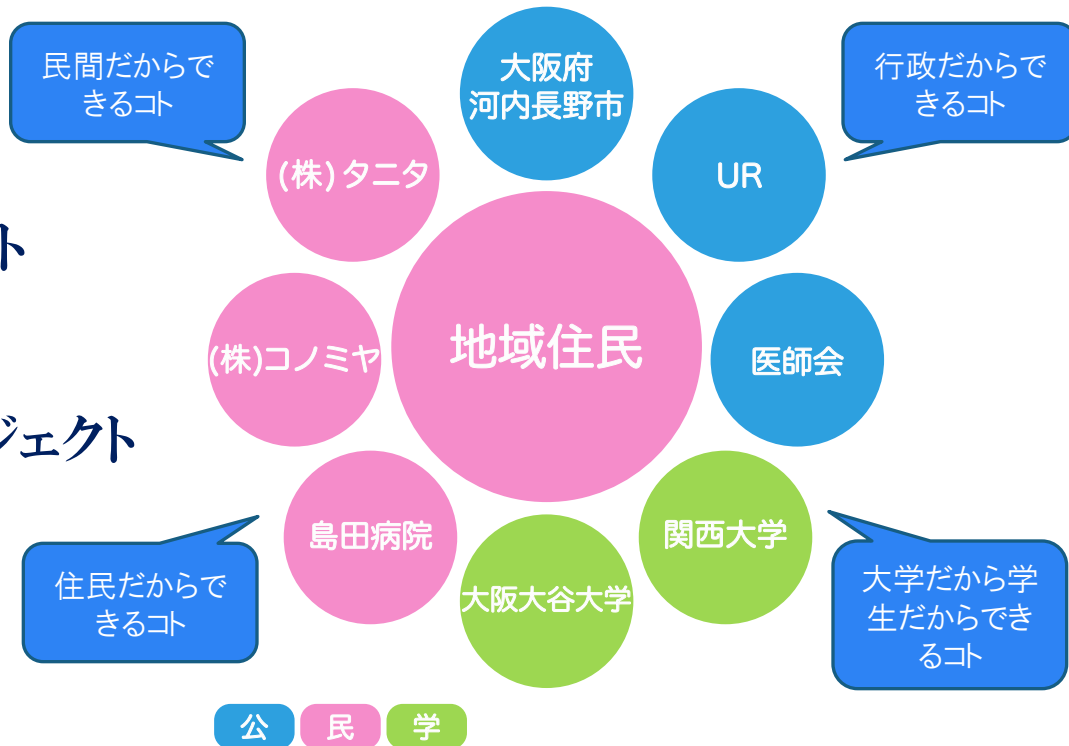
まちづくりの取組み

「丘の生活拠点」(南花台)創生事業 咲っく南花台プロジェクト

⇒多世代が生きがいを持ちながら快適に住み続けられるまち(スマートエイジング・シティ)を目指し、大阪府や関西大学、UR都市機構、(株)コノミヤ、住民など公民学の連携により、多様な取組みを実施

《主な取組み》

- ①みんなの拠点づくりプロジェクト
- ②生活応援プロジェクト
- ③健康仲間づくりプロジェクト
- ④子育て子育ち環境づくりプロジェクト
- ⑤まちの情報発信プロジェクト
- ⑥事業者連携
- ⑦ストック活用



まちづくりの取組み

①みんなの拠点づくりプロジェクト

月に一度の「住民集会」「○○カフェ」を開催し、意見交換。

その中で下記の目標を設定



- 365日オープンが目標
- 占有せず、広場のように
- 誰でも参加できる活動を
- まずやってみよう！

一気に整備してしまうのではなく、第1期～3期に分けて段階的に改修を行い、実際に使いながら考え、拠点整備を行った。

その中で、徐々にこれまでつながりのなかった世代・立場の人がふれあえる場所になっていった。



コノミヤテラス外観



交流の食事会



多世代交流の場

まちづくりの取組み

②生活応援プロジェクト

南花台くらしと地域に関する
住民意識調査(与謝野教授研究室)
→地域住民による助け合い・支え合
いをベースに買い物で困っている
人の支援ができる仕組みを試験的
に実施。



買い物応援

2016年12月からスタート

→当初は2週間限定の試験実施の
予定だったが、地域の声を聞き、
継続することになった。

→月・木の週2回で取組み開始。
(1回300円)

2018年6月から取組拡大

→庭の草引き、水やり、掃除、ゴミ捨
てなど、支援内容を拡大。

(1時間800円)



まちづくりの取組み

③健康仲間づくりプロジェクト

- ・咲く南花台健康クラブ
タニタ/島田病院/大阪大谷大学と連携
- ・地域住民による
「健康スタッフ・サポーター」の活動
→地域の医療・福祉関係の有資格者
＝健康スタッフ(8名)による健康相談会
→健康サポーター(7人)のテラス常駐
- ・「まちの保健室」
→社会福祉協議会等と連携し、悩みを持つ方の相談できる場「まちの保健室」を設置。
→月に一度の会議と健康相談カフェ実施
- ・「咲く南花台健康クラブ」で自主サークル
→歩こう会・元気体操・ノルディックウォーク
お散歩の会など
→健康体操
- ・健康クラブ ポイント制度の実施により継続的な活動を支援
- ・島田病院・大阪大谷大学による健康講座実施



健康講座/
正しい歩き方



コノテラカフェ



地域住民の自主活動/
元気体操



まちづくりの取組み

④子育て子育て環境づくりプロジェクト

- 母親同士の交流の場として子育てサロンを毎月開催
→「にこにこサロン」
- 「ファミリーサポート事業」
子どもを預かるサポート事業を実施。
- 「ふれあいテラス」
→ 母親同士の交流と意見を聞く場
→ 毎月第 2・4 週の月・木曜
10:00-16:00
- 「子ども食堂」9月スタート
→ 地域の子どもから高齢者まで、多世代が交流を図りながら夕食を食べる。
→ 社会福祉協議会と連携



ノテラ様の部屋で...
「ふれあいテラス」スタートします!



月は 10日・24日(月)、13日・27日(木)
月は 24(木)、28日(月)開催! 各日 10:00-16:00

まちづくりの取組み

⑤まちの情報発信プロジェクト

- ・コミヤテラスの黒板で発信
 - 自然と情報が集まるようになった。
 - テラスでの活動に関しては自主的にチラシを作成
- ・地域のHP「咲つく南花台.com」
 - まちネタ投稿の充実
 - 南花台での様々な出来事をアップ
 - 地域事業者の宣伝等にも活用
- ・地域情報紙「コノテラ通信」発行
 - 記者クラブにより記事を編集
- ・「コノテラ通信配布スタッフ」
 - 「地域ボランティア(現在23人)」の方の協力で南花台の全世帯に配布



コノミヤテラスの1月の予定

日	イベント名
1月1日	コノミヤテラス1月カレンダー
1月2日	コノミヤテラスの黒板で発信
1月3日	
1月4日	
1月5日	
1月6日	
1月7日	
1月8日	
1月9日	
1月10日	
1月11日	
1月12日	
1月13日	コノミヤテラスの黒板で発信
1月14日	
1月15日	

コノテラ通信 1月号 vol.19

南花台に明るさ・若さ

南花台のまちに明るさ・若さを感じてほしい。南花台のまちに明るさ・若さを感じてほしい。南花台のまちに明るさ・若さを感じてほしい。南花台のまちに明るさ・若さを感じてほしい。南花台のまちに明るさ・若さを感じてほしい。



記事について打合せ



エリアを分担して配布

まちづくりの取組み

⑥事業者連携 (咲っく南花台事業者の会) ■地元商店会の復活

2017年4月5日に発足

・南花台エリアを中心とした50以上の事業者(店舗・学校法人など)が加入。

・地域HP「咲っく南花台.com」においては、地域団体等との連携を取りながら、地域事業者の活動や事業などの発信を強化。

・プレミアムフライデーの開催

2017年8月から、毎月最終金曜日に地域のお店がそれぞれ独自の企画を打ち出し、南花台全体を盛り上げている。
(2018年度は隔月で開催)

・コノミヤ1Fに事業者の会専用掲示板設置
→事業者の会専用の広報用スペースとして関西大学がデザイン
→プレミアムフライデーの際にはポスター・チラシ等で広報



事業者の会メンバーによる交流会



掲示板 (設置前)

掲示板 (設置後)

新たな資源の創出

⑦ストック活用(廃校小学校跡地活用)

小学校跡地を活用し、
「錦秀会看護専門学校」が開校

⇒平成28年3月基本協定締結

⇒平成28年6月土地・建物契約

⇒平成29年1月校舎改修工事完了

⇒平成29年2月学校法人・看護師養成施設認可取得

⇒平成29年4月開校

⇒平成30年4月新課程(看護専門課程)増設

※地域との交流を通じ、特色ある教育を目指す



新たな資源の創出

⑦ストック活用 (UR団地集約事業)

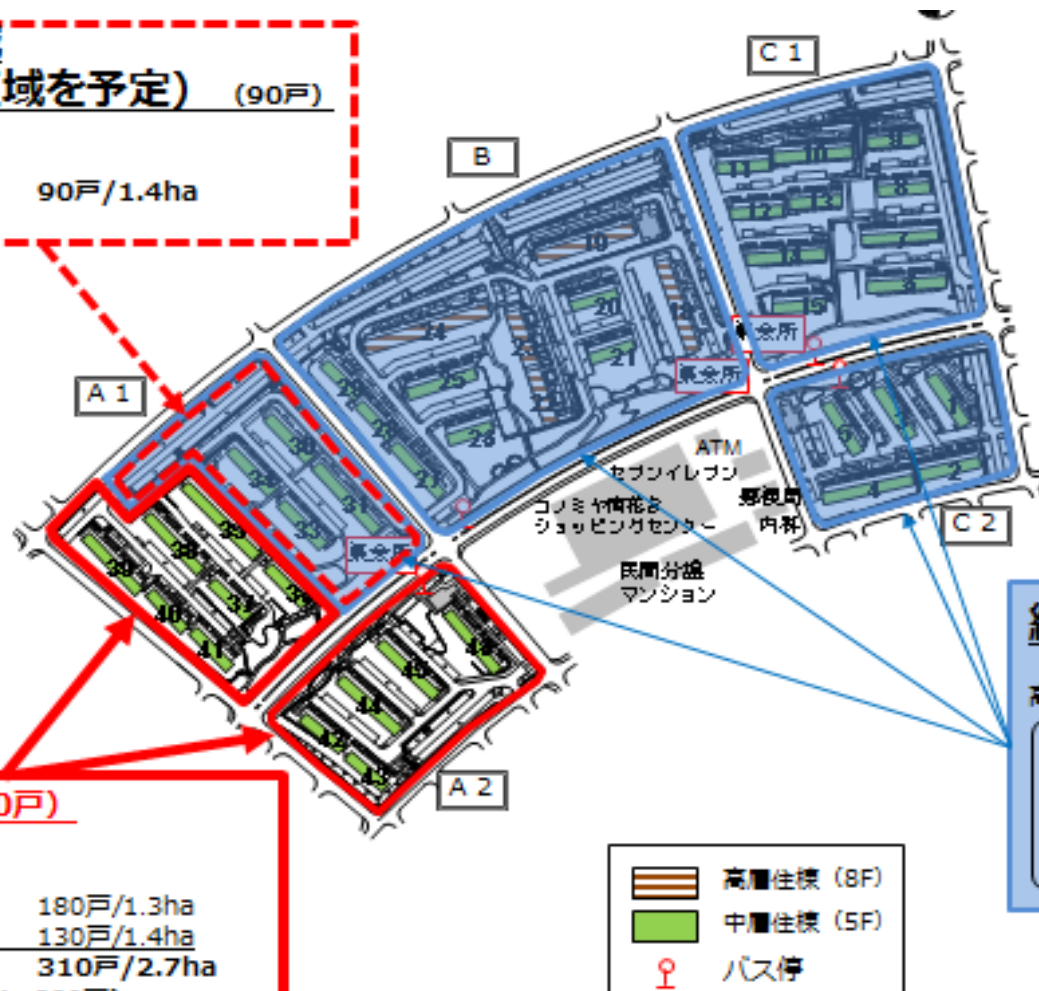
継続管理区域

(将来事業区域を予定) (90戸)

中層4棟
A1ブロック (一部) 90戸/1.4ha
(3LDK : 90戸)

事業区域 (310戸)

中層12棟
A1ブロック (一部) 180戸/1.3ha
A2ブロック 130戸/1.4ha
計 310戸/2.7ha
(2LDK : 21戸、3DK : 289戸)



平成29~30年度

- ・集約対象団地の居住者移転
- ・集約跡地の利活用方針検討
- ・事業者誘致に向けた調整

平成31年度

- ・集約建築物撤去
- ・事業者公募に向けた調整
- ・都市計画変更

平成32年度~

- ・新機能設置

継続管理区域 (904戸)

高層5棟、中層26棟

2DK : 64戸
 2LDK : 65戸
 3DK : 429戸
 3K : 146戸
 3LDK : 200戸



「咲っく南花台プロジェクト」の成果

〇〇ワークショップ

ファミリーサポート

まちづくり機運醸成

UR団地再編

まちの保健室

すまいるルーム

ニコニコサロン

カヌーづくりP

コノミヤ
テラス
整備

多世代
コミュニ
ティ創出

商店会復活

まちづくり可能性
増大

子ども食堂

咲っく南花台健康クラブ

助け合いの
仕組み
構築

地域住民
合意形成

看護学校誘致

咲っく南花台.COM

買い物応援

南花台未来予想図
づくりプロジェクト

新たな
チャレンジ



新たなチャレンジ

■ 継続的なまちづくりの仕組み構築

地域内の効率的な
公共施設管理



収益確保

- 【地域の仕事を
地域が受注】
- 公園管理
 - 施設管理

まちづくりの担い手

地域NPO運営



地域魅力向上



地域課題解決

- 【課題解決につながる
多様な取組みを継続】
- コノミヤテラス運営
 - 生活支援
 - 健康づくり支援
 - 子育て支援
 - 多世代交流活動

新たなチャレンジ

■ 実証・実装実験(国との連携)

◎官民連携モデル形成支援事業(国土交通省 H30・31)

【国土交通省・河内長野市共同事業】

⇒社会インフラ施設地域管理実証実験(公園除草・剪定・清掃等)

⇒地域住民によるきめ細やかな施設管理

⇒市の管理経費負担軽減

◎近未来技術等社会実装事業(内閣府H30・31・32)

【内閣府他・大阪府・河内長野市共同事業】

⇒自動運転実装実験(公道での無人化走行)

⇒新たな公共交通の可能性を創造

近未来技術等社会実装事業の概要 (自動運転による新たな移動サービスの実現と健康寿命の延伸)

目指す
将来像

「自動運転技術」を活用し、高齢者をはじめ誰もが健康でいきいきと活躍できる社会を実現

解決すべ
き課題

- 少子高齢化や高齢者の交通事故増加に対応した利用しやすい公共交通の構築
- 外出機会の拡大による高齢者の健康寿命の延伸

2020年
度までの
事業内容

健康寿命の延伸等を目的としたスマートエイジング・シティの取組等を実施している河内長野市を対象に、**自動運転**

システムによる新たな移動サービスの社会実装を実施

- 地元において、「開発団地等における自動運転サービス実装協議会」(仮称)の設置
- 高精度3Dマップの作成(作成3Dマップはインフラ維持管理等への活用も検討)
- 将来の5G社会を見据え、5G通信環境での自動運転の実証実験の実施予定



自動運転サービス走行ルート(イメージ)



事業内容の全体像

